

(1) サロンの現状

●サロン設置目標数は概ね達成、参加者層に偏り

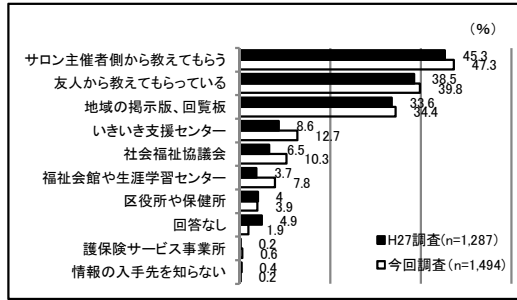
高齢者・共生サロンに関しては、目標設置数は達成していますが未設置学区もあり、学区内で身近に通えるよう、地域の実情に応じたの整備が必要です。また男性の少なさ、担い手の高齢化が問題視されています。

●代表者・参加者ともに満足度が高い

サロン参加者の94%が満足感を得ています。また、代表者のアンケートに寄せられた自由記入を見ると「友達ができたり、笑顔が増えたり、参加者の変化がうれしい」「参加者の生活の張りとなっている」といった手ごたえを感じていることがわかります。

●口コミによるPRが中心

サロンに関する情報の入手先は「主催者から」「友人から」が多くなっています。



(2) サロンの課題

●参加者・担い手の多様化

これまでに地域との交流の希薄な人（特に男性）への参加の働きかけが必要です。また、担い手に負担が少なく、楽しく安定して継続運営できる体制の確立が必要です。

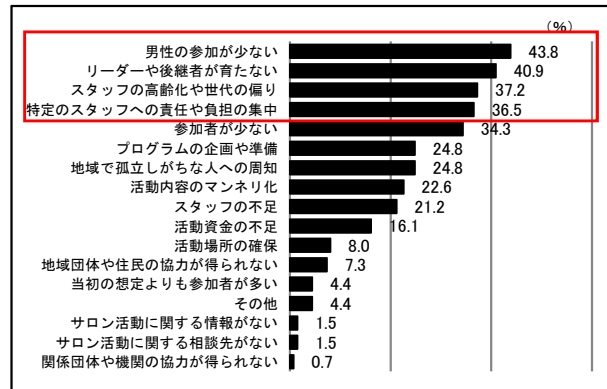
●プログラムの充実化

お茶やおしゃべり、健康体操など現在人気のあるプログラムの継続と充実に加えて、未参加者層のニーズ把握と、講師・指導者の確保および会場の確保が求められています。

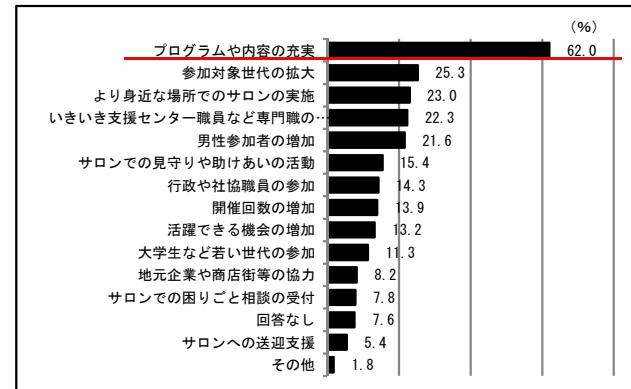
●参加者との交流方法の多様化

未参加層への参加呼びかけのため、口コミ以外の情報提供方法の充実が必要です。また、サロン参加を通じて、日常の困りごとや悩みを相談できるような体制づくりも求められます。

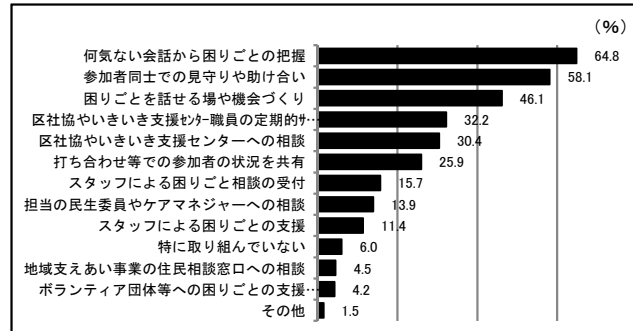
【代表者：活動上の悩みや困っていること】



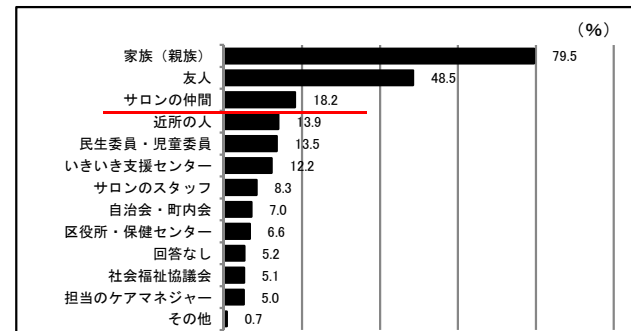
【参加者：今後のサロン活動に必要なこと】



【代表者：参加者の困りごとの発見や解決に向けて取り組んでいること】



【参加者：困りごとの相談相手】



(3) 社会福祉協議会に求められる支援

- サロン活動の継続的な把握**：運営・参加者双方のニーズ把握、各サロンの取組の情報共有、助成制度の継続と見直し
- 担い手の確保の支援**：ボランティアの育成および確保の支援、講師情報や会場情報の整理・提供、PRツールの紹介・作成支援
- 相談機能強化支援**：サロン訪問の継続、いきいき支援センターや保健センターなど関係機関・社会福祉施設等とのネットワークづくり

発行日：平成31年3月

発行：社会福祉法人
名古屋市社会福祉協議会

(1) 調査の目的

名古屋市社会福祉協議会では、「ふれあい・いきいきサロン（以下、サロン）」の現状及び課題等について、サロン運営ボランティアの代表者及び参加者を対象に、サロン活動上での課題やサロン参加後の変化、支援要望等を把握するとともに、今後、サロン代表者が安心してサロン活動ができ、また参加者も意欲的にサロンに参加できるような地域社会づくりに役立てることを目的として、アンケート調査及び統計データの整理を実施しました。

(2) 調査の概要

- 調査対象：名古屋市内のふれあい・いきいきサロン主催者及び参加者
- 調査方法：郵送配布・郵送回収（平成30年11月1日発送）
- 調査時期：平成30年11月～12月
- 配布数：400票（代表者）2,000票（参加者）
- 回収数：332票（代表者）1,494票（参加者）
- 有効回収数：1,826票 ○有効回収率：76.1%

1 ふれあい・いきいきサロンの区別設置把握数

市内のふれあい・いきいきサロンは平成30年11月現在で1,817か所あります。区別で見ると緑区が最も多く199か所、次いで南区が146か所あります。一方、最もサロン数が少ない中区では70か所、次いで熱田区が72か所という状況です。

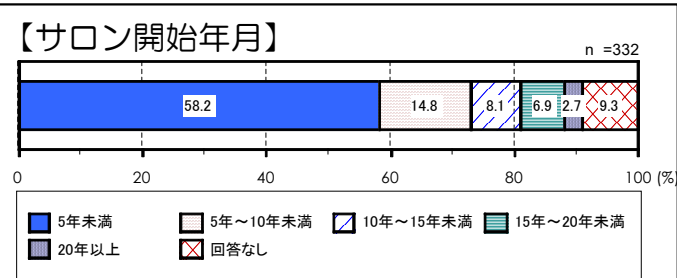
また、各種事業別で見ると、共生型は南区で最も多く55か所、最も少ない名東区で2か所となっており、高齢者では緑区が最も多く108か所、最も少ない天白区で27か所、障がい者では天白区で最も多く4か所、西区、中村区、昭和区、熱田区、南区では0か所となっています。子育てサロンでは、南区と緑区が最も多くそれぞれ39か所、最も少ない熱田区で12か所となっています。

高齢者1,000人あたり的高齢者・共生型サロン数では、サロン合計数の少ない東区、中区、熱田区において高齢者数も少ないため、それぞれ3を上回っています。千種区と天白区は2を割り込んでいます。

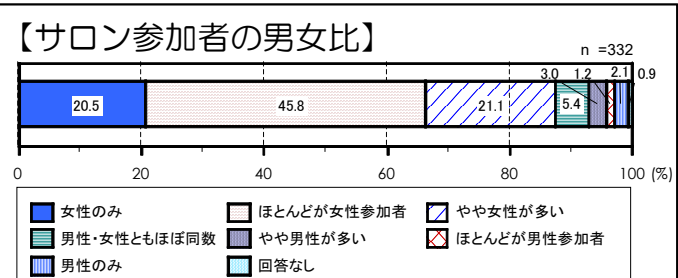
【ふれあい・いきいきサロン区別設置把握数】

	共生型	高齢者	障がい者	子育てサロン	合計	高齢者1,000人あたりの高齢者・共生型サロン数
千種	22	48	1	21	92	1.82
東	21	34	1	18	74	3.04
北	32	72	1	28	133	2.25
西	16	79	0	27	122	2.65
中村	21	85	0	29	135	2.89
中	11	42	1	16	70	3.04
昭和	10	53	0	25	88	2.49
瑞穂	32	26	1	15	74	2.10
熱田	27	33	0	12	72	3.50
中川	36	78	1	30	145	2.13
港	18	86	1	28	133	2.69
南	55	52	0	39	146	2.67
守山	29	73	1	26	129	2.40
緑	49	108	3	39	199	2.89
名東	2	75	1	30	108	2.20
天白	39	27	4	27	97	1.83
計	420	971	16	410	1,817	2.47

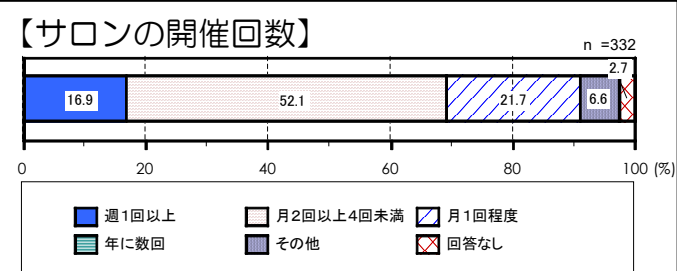
※平成30年11月現在「高齢者千人あたりの高齢者・共生型サロン数」算出にあたり使用した65歳以上人口は名古屋市統計年鑑平成29年10月時点の数値



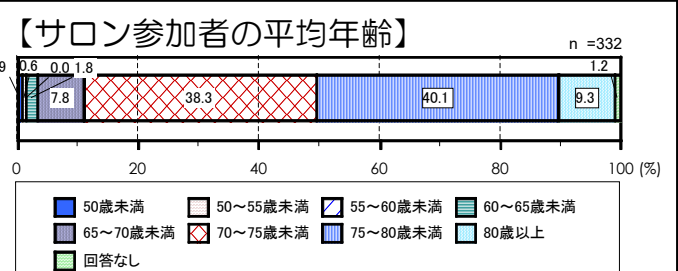
■「5年未満」が最も多く、次いで「5年～10年未満」が多くとなっています。



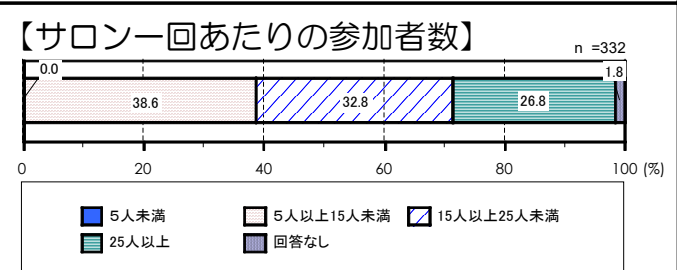
■「ほとんどが女性」が最も多く、男性の参加者比率は少なくなっています。



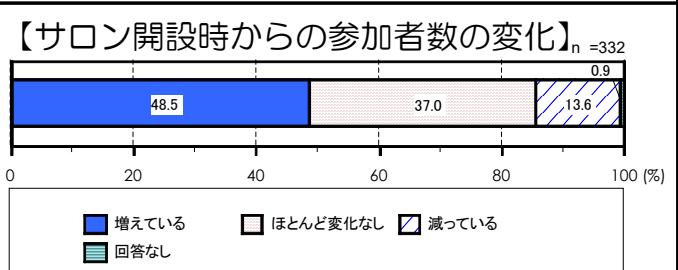
■「月2回以上4回未満」が最も多く、月2回以上の開催は全体の7割近くとなっています。



■サロン参加者の平均年齢では前期高齢者および後期高齢者が9割を超えています。



■「5人以上15人未満」が最も多く38.6%。25人未満での開催が7割程度となっています。

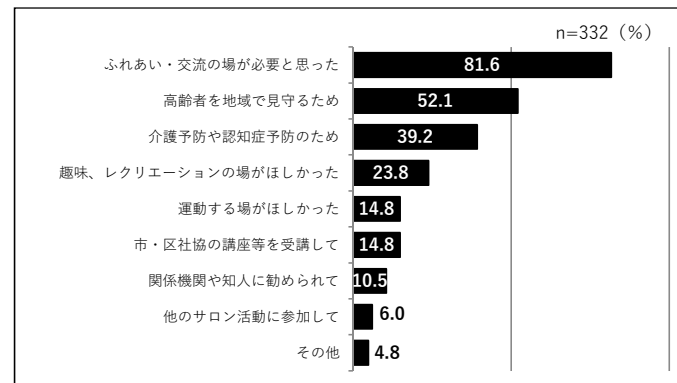


■サロン開設時と比較して、約5割のサロンで参加者数が「増えている」となっています。

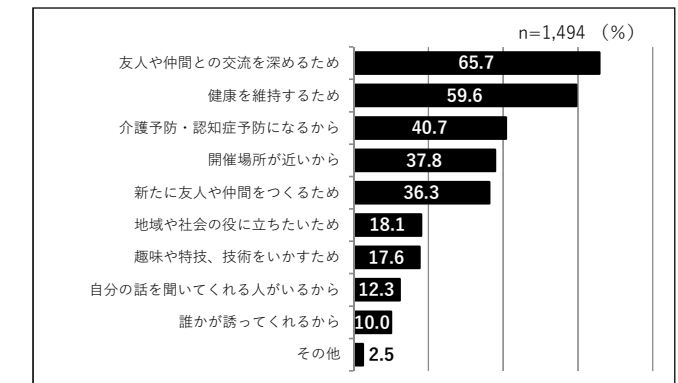
サロンをはじめたきっかけは、「ふれあい・交流の場が必要と思った」「高齢者を地域で見守るため」「介護や認知症予防のため」と多くの方が答えています。また参加者は「友人や仲間との交流を深めるため」「健康を維持するため」「介護予防・認知症予防になるから」などを参加する理由として挙げています。

アンケート結果からは、健康に対する意識が高まり、認知症予防や、人との交流が増えることに繋がっているなど、設立当初の目的はサロン活動を通じて高い効果を上げていることがわかります。

【サロン代表者 サロンをはじめたきっかけ】



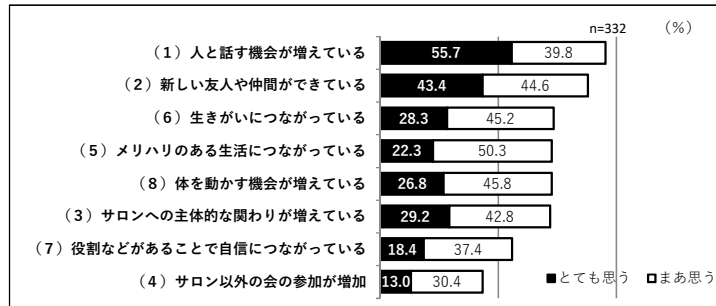
【サロン参加者 サロンに参加する理由】



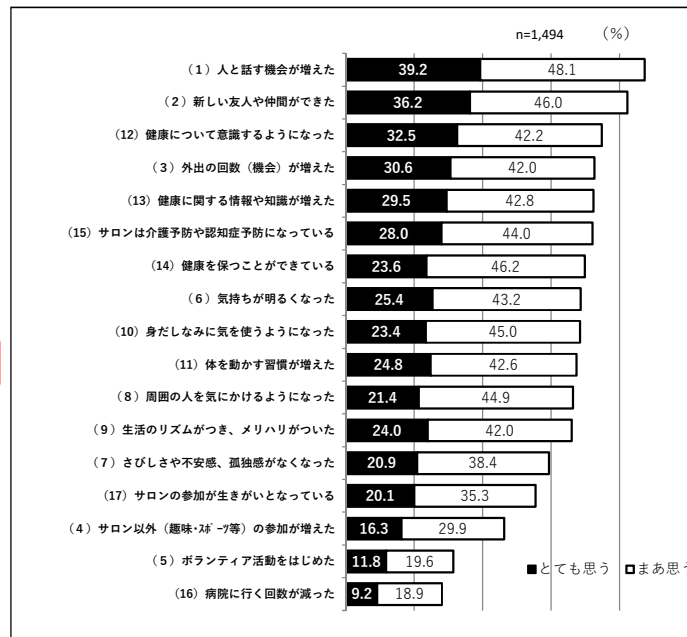
代表者、参加者ともにサロンに参加することによって「人と話す機会が増えた」（代表者：95.5%、参加者：87.3%）「新しい友人や仲間が増えている」（代表者：88.0%、参加者：82.2%）と答え、サロンは地域におけるコミュニケーションの場としての効果が大変高いと評価されています。また、代表者は「生きがいにつながっている」や「メリハリのある生活につながっている」、参加者は「健康について意識するようになった」や「外出の機会(回数)が増えた」との効果が高く上げていて、サロンへの参加が健康を維持したり、生活に張りを生んだりしていることがうかがえます。

サロンに対する満足度を見ると、参加者の9割以上が満足しています。

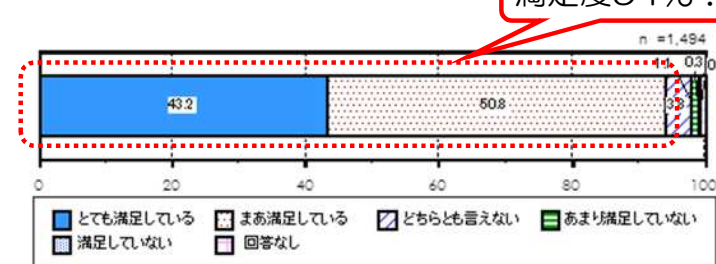
【代表者が感じている「参加者への効果」】



【参加者が感じている「自分自身への効果」】

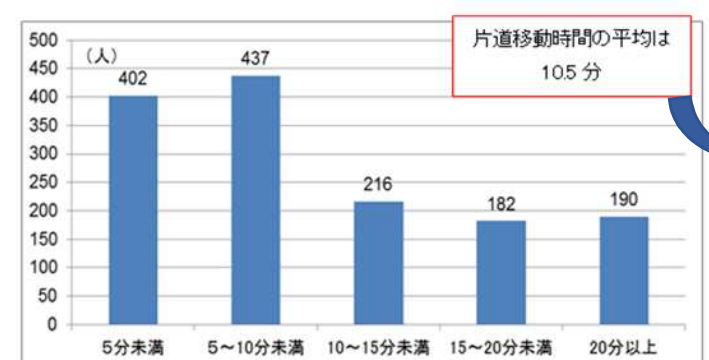


【サロンに対する参加者の満足度】 満足度94%!



サロンは、参加者の自宅から比較的近い場所が会場となっており、徒歩による片道移動時間の平均は10.5分となりました。高齢者の1分あたりの歩数の値を用いて算出すると、サロンへの外出一回あたりの歩数は約1,800となり、65歳以上の1日あたり歩数の増加目標「+1,400歩」を達成することができます。

【参加者の移動時間の分布】 設問：サロン参加者の自宅からサロン会場までの徒歩による片道移動時間を教えてください。



【サロンへの1回あたりの外出による歩数】

活動1回あたりの移動による歩数
 $= 21.0 \text{分 (往復)} \times 87 \text{歩/分} = 1,827 \text{歩}$

1,400歩を上回る

※平均歩数は「健康日本21(厚労働省)」に基づく。(高齢者の場合で15分を1,300歩、87歩/分)